

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475600621
法人名	株式会社ソーケイ
事業所名	グループホーム百合ヶ丘
訪問調査日	平成19年8月22日
評価確定日	平成19年12月14日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1475600621		
法人名	株式会社ソーケイ		
事業所名	グループホーム百合ヶ丘		
所在地 (電話番号)	神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘3-27-2 (電話)044-955-3917		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成19年12月14日

## 【情報提供票より】(19年8月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算 15人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての 1階部分		
------	--------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	44,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)200,000円 無	有りの場合 償却の有無	(有)/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(8月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 79.7 歳	最低 66 歳	最高 97 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あいクリニック平尾 鶴川厚生病院 みどり歯科 宇井クリニック		
---------	--------------------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、駅から歩いて8分の閑静な住宅街にある。建物は、「その人らしく尊厳を持って、普通の家庭生活が送れる」という創立者の思いをもとに設計された。一般家庭を思わせる瀟洒な大邸宅で、内部の壁面や床は落ち着いた色彩で統一されている。共用空間はゆとりがあり、車椅子の対応が十分可能である。また、ピアノや見事な絵画、観葉植物、ロココ調家具などがすっきりとレイアウトされており、品位ある居心地の良さを作りだしている。  
職員は、「普通の家庭生活の継続」を目標にケアを実践している。24時間体制の医療連携、利用者の尊厳を守る接遇や食事、入浴への配慮など細かい心遣いが活きている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設3年目を迎え、地域密着型サービス外部評価は今回の受審が初めてである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、幹部が職員から聞き取りを行いまとめた。幹部職員は、第三者の視点や評価の意義を認識しており、評価を活かして運営改善を図る意向であるが、評価の意義を認識していない職員もいる。全職員が外部評価の仕組みや意義を理解できるよう周知することを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。参加メンバーは、利用者、家族、地域住民代表、区高齢支援課、管理者、職員で、人数は計10名である。会議では、ホームの日常の活動内容、現時点の問題点及び課題をテーマとし、質疑応答や検討を行っている。課題の解決へ向けた取り組みとして、ボランティア発掘のため社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携を図るなど模索している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者個々の日常生活面と医療面の記録が一月ごとにまとめられ、「グループホーム百合ヶ丘便り」として写真や請求書と共に家族へ送付されている。家族の来訪時には日々の様子を伝え、医療機関で受診した際は必ず電話で知らせている。家族の要望は検討し、連絡帳に書き職員間で回覧している。改善したことや対応内容は家族に説明している。苦情受付機関は書面上明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にはユニット単位で加入している。会合や草むしり、防犯活動にも参加し、地域との付き合いを模索している。秋祭りに参加したり、公園に出かけ、散歩に来ている近隣の人達とは交流を図っている。近所のクリニックや美容院、コンビニやクリーニング店、酒店などと買い物を通して交流している。各種のボランティアや小・中学生との交流も行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの個性を尊重し、今までの生活を継続するふつうの家を作りたい」という独自の思い(理念)をこめて、管理者は当ホームを立ち上げた。方針には、名誉やプライバシーの尊重・家庭的な環境・個別のサービス・関係機関や地域との交流などが謳われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に賛同した職員を採用している。日常の申し送りや業務の中で、出来る限り利用者にとって「ふつうの家にする・・・自分の好きな生活ができる家」という理念の実践に向けて職員同士で努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にはユニット単位で加入している。会合や草むしり、防犯活動にも参加し、地域との付き合いをしている。秋祭りに参加したり、公園に出かけ、散歩に来ている近隣の人達とは交流を図っている。近所のクリニックや美容院、コンビニやクリーニング店、酒店などと買い物を通して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開設3年目を迎えて、外部評価は今回の受審が初めてである。自己評価は、職員から聞き取りを行い幹部でまとめたが、自己評価の意義を認識していない職員もいる。幹部職員は、第三者の視点や評価の意義を認識しており、評価を活かし改善への取り組みを行う意向である。		全職員が外部評価の仕組みや意義を理解できるよう周知することを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。参加メンバーは、利用者、家族、地域住民代表、区高齢支援課、管理者、職員で、人数は計10名である。会議では、ホームの日常の活動内容、現時点の問題点及び課題をテーマとしている。課題の解決へ向けてボランティアを発掘するなど模索している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者には、ホームの情報を提供したり、不明な点の相談など随時電話で連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの日々の状況やデータを生活記録に職員が記載している。その記録から日常生活面と医療面の記録が一月ごとにまとめられ、「グループホーム百合ヶ丘便り」として写真や請求書と共に家族へ送付されている。家族の来訪時には、日々の様子を伝えている。医療機関で受診した際は必ず電話で連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談の際に希望や要望を聞いている。出された要望は検討し、連絡帳に書き職員間で回覧している。お風呂に入りたがらない利用者への対応や掃除について要望が出されたことがある。その際は家族に改善したことや対応内容を説明している。苦情受付機関は書面上明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が辞める際には、混乱を防ぐため特に説明はしないようにしている。職員が退職したことに利用者が気づいたときには、個々にさりげなく口頭で伝えている。マニュアルを基に均一なサービスを提供しており、他の職員がカバーし利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	幹部職員は、認知症介護実践者研修などの受講実績がある。ホーム内で認知症接遇研修などを実施したこともあるが、研修計画は作成されていない。単発的な研修への参加はあるが、研修内容について報告し全職員で共有を図るまでには至っていない。		年間の研修計画を立て、各職員がキャリアや力に応じて研修に参加できる体制を作ることを期待する。また、外部研修に参加した際は内容を持ち帰って報告したり、内部でOJTを行うなど人材育成に努めることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。同協議会の理事が時折来訪し、困難事例に対して相談に応じてもらっている。頻度は少ないが他の事業所への訪問も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望者や家族とじっくり話し合い要望を聞いている。何回もホームを来訪してもらい、お茶や食事を共にしながらつづぎ、本人が馴染み納得できるよう配慮している。希望に応じて体験宿泊も実施している。入居時は、しばらくの間家族に来訪してもらったり、馴染んだ職員を配置するなど、混乱を防ぐ工夫を重ねている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生経験の豊富な利用者から物事の考え方や見方などを教えてもらい、今まで知らなかった事が見えてきたり、分かることも多い。針仕事や台所仕事を教えてもらった、「お疲れ様、早くお帰りなさい」と声をかけてもらうなど、利用者と職員は双方向で支え合っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>週2～3回定期的に利用者の居室を訪問し、嗜好や希望・意向、身体状況を把握している。生活記録を読み返し、1日や1週の生活リズムなど、利用者の希望や現状に即して課題を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向や希望、医師の診断などを基にケア会議を3ヶ月に1回開き、計画を作成している。担当制にはせず、利用者の状況・注意点など気づいたことを生活記録や連絡帳に職員全員で記載し、申し送っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>安定した状態の方が多く、介護計画の定期的な見直しは1年に1回となっている。身体状況の変化などが起こった場合には家族や医者と連携のうえ、即時見直ししている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約しており、24時間の健康管理体制が敷かれている。また、専任の看護師の訪問も週2回ある。家族がいない方や遠方に住んでいる方には外出支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の利用を希望する場合は、本人の意向を大切にしている。月2回の内科医の往診があり、歯科医、肛門科医とも契約している。往診は随時可能である。隣りに歯科医院があるなど近隣は医療関係施設に恵まれており、手軽に診察や往診をしてもらえる環境である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	信頼関係を築きながら、家族、医師、看護師、介護職との話し合いを重ね、終末期を尊厳を持って過ごすための方針や対応の仕方を決定している。「重度化した場合における対応に関する意思確認書」があり、医師が内容を説明し同意をもらっている。今春、実際に看取りが行われた。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを尊重している。言葉遣いや語調などは職員が互いにチェックあっている。守秘義務、個人情報の取り扱いについての記載が契約書および運営規定にある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	面談を週2~3回行い、利用者の望むリズムやペースの把握に努めている。朝は、利用者との挨拶を交わす際に昨夜の様子を聞いたり状態を観察したりしながら、利用者のペースにあわせ生き生きとした1日を過ごせるよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に料理や片づけを行っている。食事は一緒にはとっていない。献立はホームが作成しており、利用者の好みを反映している。調査訪問時には利用者が「この食事は美味しい」と話していた。夏らしい器が使われており、料理も旬の食材が用いられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の望む時間に入ることが出来る。望む方には同性介助を行っている。入浴を拒む人に対しては、本人の意向に合わせて言葉や行動を選びながら、入浴に誘う工夫をしている。清拭や足浴にも対応している。設備面は、手すりがあり、車椅子に対応可能な広さで、壁面のタイルなども明るく、洗い桶などは清潔に管理されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や趣味活動、ゲームなどの支援をしている。毎日曜日に教会へ行く方、声優として東京まで行く方がおり、出かける際はおしゃれを支援している。重度の方へは、好みの音楽をかけたり、トランプのカードめくりを手伝うなど、楽しみを見出せるよう心を配っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	コンビニやスーパーへ出かける際には、坂道があることもあり、職員が付き添っている。車椅子で公園に散歩に行く際には、到着後に歩行訓練もかねて地面を歩き土に親しんだり、外の空気に触れ五感に刺激を与えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけない暮らしの大切さを十分認識している。日中は玄関の鍵は開いているが、2階のユニット入り口は、出ですぐに階段があるため閉めてある。家族の了解は入所時に取られている。配慮を必要とする利用者は常に職員間で注意し、鍵のない生活ができるよう取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や食料品などを備蓄している。救急救命法は一部職員が研修を受けている。避難経路は確保されているが、避難訓練の実施はされていない。		消防署や近隣自治会など地域と連携して防災訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に利用者と面談し、嗜好や体調を聞き取り、献立に取り入れている。1日を通して食事量や飲水量を確保し、食事バランスにも配慮している。しかしながら、栄養摂取量や栄養バランスについて、専門的な観点からの点検は行われていない。		栄養士や保健師など専門家から、定期的に食事内容のチェックや食生活に関するアドバイスを受けることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットともリビングは絵画、調度品、ゆったりとしたソファがあり、ピアノなども楽しめるゆとりある空間となっている。また、床暖房や堀のある手すりがあり、バリアフリーで、車椅子に対応可能であるなど配慮されている。見晴らしの良い落ち着いた和室もある。温度、採光も適切で、音、臭いなどに不快感はない。観葉植物や季節の花が飾られ、しゃれた家庭の雰囲気をかもし出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間と和室がある。各居室やトイレなどに表札は無いが、間違える人はいない。居室は美しく、家庭的である。居室の中は清潔で、一人ひとりの好みの家具や馴染みのものが置かれ、その方の人柄や暮らし方がしのばれる。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百合ヶ丘
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘3-27-2
記入者名 (管理者)	沼倉千恵子 (管理者垣畑啓子)
記入日	平成 19 年 7 月 31 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		新しく入社した職員の意見や感想等取り入れ必要があれば理念を見直し確かな実現につなげてほしいと考えている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		現在月1回程度の会議の回数を増やしより細かな話し合いを実現していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		グループホーム広報等を定期的に発行し具体的に紹介していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ホームのリビングや居室前の大テーブルも地域住民の方々が気軽に利用できるように工夫したい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事に定期的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者のプライバシーや意向について配慮しつつ、地域住民の見学希望には可能な限り応じ丁寧な説明に応じている。		全職員(常勤/非常勤)に定期的な研修・自己啓発の場を提供したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	必要に応じて評価を受ける姿勢でいる。		今回が初めての評価であるが結果を謙虚に受け止め職員間で議論を行い、サービス改善に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1度の割合で会議を行い、ホームの理念や入居者の生活の日常をできるだけ詳しく地域住民に説明できるようにする。		職員や入居者家族などグループホーム関係者以外のメンバーに出席を呼びかけ開かれた会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	基本的に市町村とのかかわりは運営推進会議で行っているがそのほか不明瞭な点や指示を仰いだほうが良いと思われる事項は随時電話で相談している。		市町村とのかかわりをこれまで以上に増やし連携を本格的なものにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人手の手薄な時間帯や曜日が発生しないようにバランスの取れたシフト作りに努める。		本人や家族との面談から後見制度のニーズを捉え適宜情報提供をしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間のケアの内容や入居者の様子を報告し合い虐待が行われていないかを常に観察、確認を行う。		職員間で虐待に関する知識獲得の為の研修を行い高齢者虐待防止法等についてや万が一虐待が発見された場合の対応策を会議したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約を始め入居後の料金変更などその他の変更が生じた場合には書面にて説明し了承を得ている。</p>		<p>入居時以外の契約に関する説明を書面のみでなく対面して行えるよう便宜を図りたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>週2回程度の入居者の話の聞き取りを行い希望や不満の有無を確認している。またその内容を管理者やスタッフに伝え周知を図る。</p>		<p>スタッフに担当製を設けより密接な関係を築きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>請求書送付に合わせて利用者の1ヶ月の様子(生活/医療)を送っている。家族来訪時には随時日々の様子を報告している。</p>		<p>プライバシーに配慮した写真などの報告も行いたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>必要に応じて家族との面談の場を設け希望や不満などの確認を行っている。聞き取った内容は管理者・スタッフに申し送る。</p>		<p>現在定期的な家族の面談の場はないが3ヶ月に1度程度の情報交換、サービス向上のための会議の場を持ちたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回会議を設け意見交換を行う。また会議が必要なことは随時会合を設け、連絡帳も活用している</p>		<p>現在日勤者のみの出席である会議に夜勤専門職員も出席できるよう取り計らってほしい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>人手の手薄な時間帯や曜日が発生しないようにバランスの取れたシフト作りに努める。</p>		<p>スタッフの病欠や希望休に対応できるように余裕を持ったシフト作りに努めていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>完全な担当制は敷いていないが各ユニットに最低でも1人の専任スタッフを設け入居者に継続して観察できるような工夫をしている。</p>		<p>新職員が入る場合は慣れるまで現在の職員がサポートし利用者とのかわりをサポートしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主にサービス計画作成担当者を中心に随時研修の受講を計画している。		常勤・非常勤問わずサービス向上に役立つ研修を少なくとも年1回は受講可能なシフト作成をしていきたい。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の連携や交流は今のところ実施していない。グループホーム協会に所属している。		他グループホームの運営推進会議の相互出席などを計画し、同業者同士の情報交換交流を進めていきたい。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間以外の交流を持ち、職員間の問題や課題を共有している。		職員のストレス軽減の為の取り組みを具体的に展開実施したい。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	随時職員は勤務状況を管理者に報告し相談している。		職員と管理者の面談の時間を持ち勤務状況の報告や相談を行えるようにしたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との最初の面談は入居初日がほとんどである。ホームのことをよく説明して不安解消に努める。		入居が決まった段階で本人と面談し双方の話し合いを重ね信頼関係の構築を図りたい。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の家族との面接で本人とのニーズや家族ニーズが何かを見極める為のアセスメントに努める。		現在1回ほどの入居前面談を家族の都合が許す限り回数を増やし詳細なニーズを把握したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて訪問診療や訪問マッサージなどのサービスを紹介し、連携している。		精神ケアの一環としてボランティアサービスの利用を検討し、実現につなげていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現状ではホームの入居が必ずしも納得されていない利用者の方もいらっしゃるが、なじみの職員を配置し、不安解消に努めている。		可能な範囲で体験入居を実施し入居前の不安解消に、後の円滑なサービスへつなげていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の長い利用者から教えられ、励まされる相互の関係を築いている。特に台所仕事は教えていただいている。		利用者の人生経験を生かせるような場をなるべく設けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の連絡をなるべく密に取り合い、些細な変化に関する情報を直ぐに共有できるように務めている。		本人の生活史や生活習慣に関するより詳細な情報を集め、家族と共に利用者の個別的な生活を実現させたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度利用者の情報を家族になるべく詳しく書き送り、疎遠になっている家族にも両者の心身の状況を伝えている。		誕生会などに家族を招き、ホーム入居後も家族との関わりを絶やさないう支援したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に関係継続の支援を行っていないが、訪ねてきたご友人にはスタッフが挨拶し、相互の認識を深めている。		知人・友人をホームに迎え入れるだけでなく、ホームから訪ねていける環境を築きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全スタッフが情報を共有し、観察を継続しながら、利用者同士の関係改善修復に向けての支援を行う。		スタッフがグループワークのりねんや手法を理解し、適切な支援を行えるよう研修や学習の場を設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ入居の契約を解除した利用者との関係は持っていない。		契約を解消した利用者家族についても随時相談に乗ったり適切な機関を紹介したりするなど、継続したフォローを行って行きたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に居室内での意向把握の時間をもち、希望の実現に向けて取り組む。		利用者の希望や不満を汲み取り迅速に対応できるようスタッフ間の情報伝達や組織力を強化したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記の話し合いの時間により詳細な生活暦好みの把握に努めている。		利用者だけでなく家族や知人との話し合いの場を設け利用者像を多面的に理解したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に記録を読み返し1日や1ヵ月の流れにおいての利用者の生活パターンの把握に努める。		入居時の情報のみに捉われず、ホームの人的・物的環境の中で利用者の能力を最大限に生かせるような試みを続けて行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時と要介護度の大きな変化があったときに介護計画の見直しをしている。		一人一人の個性を考慮した個別サービスのための介護計画の作成更新に努めたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の悪化、ホーム内での人間関係の悪化によりスタッフでの対処が不可能な場合は随時家族や医療機関に報告相談をしている。		画一的になりがちな介護を見直し、個別性の強いものにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中での発見、気づきを重要視して日々の記録に生かしている。		より詳細な記録が記入できるようスタッフ間で記録の研修などを行いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内の支援の限界を補うためボランティアを募集している。		介護保険外のサービスやボランティアなどの資源を取り入れ、多様なサービス提供に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防点検や会議の際に出席される市職員との連携に務める。		学校や保育園の生徒・児童たちとの交流を実現させていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネより情報を集めサービス改善に努めている。		地域包括センター職員との連携を密にしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターとの具体的な協議は行っていない。		同上
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2つの医療機関より訪問診療を受け入れている。		かかりつけ医との連携を細かく強化していきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療には管理者・ケアマネが立会い報告相談に務めている		かかりつけ医以外の地域の専門医との連携を深めていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約を結び定期的に(週1回)と随時の訪問を受けている。		訪問看護ステーションとの連携強化に努めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはかかりつけ医の診療情報書を依頼しホーム側も生活面での情報提供を行っている。		本人の状況を正しく把握してもらえるよう適切な情報提供に努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療職介護職員、家族との話し合いを重ね、終末期を尊厳をもって過ごすための方針を決定・周知している。		終末期におけるケアの方針をなるべく早いうちから話し合いによって決定し、いざというときに慌てないようにしたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療面では医師・看護師より指示やアドバイスを受け、生活面ではホーム職員と家族との間で話し合いを重ね、チームとしての支援に取り組んでいる。		他の利用者に不安や不快感を与えないようにチームとしての適切な協働に努めたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居に伴う情報提供を行っている。		利用者の退居この生活が持続性・安定性のあるものとなるよう適切な支援に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、誇りを尊重する対応に職員一同で努めている。		定期的に言葉遣いやマナーを改善するための研修の場を持ちたい。
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	遠慮がちなどには個別に面接を行い、言葉に表せなかった意向を汲み取りつつ自己決定の支援を行っている。		利用者の真の思いを引き出させるような日頃の信頼関係の構築に努めたい。
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的な面談によって利用者の望むリズムやペースを把握するようにしている。		業務優先になりがちな生活支援を利用者本位のものとなるように定期的に見直しをしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に添い美容院の付き添いや訪問利用の受け入れを実施している。		現在家族付き添い以外は近隣の美容院利用に限られているが、ボランティアを活用し利用する店の範囲を広げたい。
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限りのお手伝いをお願いし、準備後片付け共に職員と利用者が協働する。		趣味の一環として料理教室やお菓子教室を行って行きたい。
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や煙草を好む人に関しては安全・健康を考慮した上で楽しみを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人一人の排泄のリズムを把握し、トイレで普通に排泄が出来るよう声かけ誘導に努める。</p>		<p>より細かな個別の排泄状況を把握し、適切なるケアに努めたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者全員が気持ちのいい入浴が出来るよう、個別ケアに努める。</p>		<p>職員の配置や役割分担を工夫し、利用者が好きな時間に入れるようにしたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>定期的な面談や医師の問診を通じ睡眠状態の把握に努めている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活が単調で刺激に乏しいものにならない様に外出や趣味活動の支援を継続している。</p>		<p>ボランティアの人的資源を取り入れ、外出や趣味活動の範囲を徐々に広げて行きたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と金銭所持のトラブルの内容に話し合い、可能な限り自分で支払えるような機会を確保している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>無理強いを控えながらも、自然と利用者が戸外に行ける様に支援している。</p>		<p>個人個人の希望に添った外出の実現、取り組みをしていきたいと考えている。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>散歩や買い物以外にどこか出かけたいかどのようにしてその希望を実現できるか、話し合いを重ねている。</p>		<p>家族・ボランティア・公共機関を利用して旅行やハイキングなどをしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通じて利用者の社会関係を継続される支援に努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの人の訪問を受け入れ、ゆったりしてもらえる雰囲気を作るように努めている。		遠方に在住している家族には別室宿泊できるように支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保以外に不要な拘束はしないよう努めている。		研修を通じ拘束を学びたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在ユニット と玄関の門には施錠をしている。		安全を確保し、鍵をかけない戸の実践していきたい。そのためには地域住民の協力をしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日夜を通じ見守りを継続している。		死角を作らぬよう、安全策を講じて行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁の置き位置、ガスの点検等職員間で注意し、安全管理を行う。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	店頭の危険性を絶えず認識し職員間で注意の喚起を図る。		事故に関しての職員の研修を持ち、自己防止対策の知識・技術を身につけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要な応急手当について訪問看護の看護師や、医師の指示を受けている。		全職員が緊急対応が適切に出来るように医療職を招いての研修を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	具体的な災害対策は実施していない。		定期的に市消防局の協力を得て避難訓練を実施したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	外出先の支援などホーム側で出来ることと出来ないことを家族に説明し話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの他、表情や体調の変化に注意し、利用機関に連絡を仰ぐなど迅速な対応に努める。		職員全員が利用者の持病やアレルギーなどを把握できるように情報共有に努めたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報に対応しつつすべての職員が利用者の服薬に把握できるようファイル作成し、変更に応じ随時更新している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防・解消のための生活リズムや水分量運動量の見直しを行う。		下剤服用に頼らない便秘解消に努めたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援が必要な利用者に関しては適時食後の口腔ケアを行う また定期的に歯科訪問も受け入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に利用者に面談し、嗜好・体調の聞き取りを行っている。脱水が疑われる入居者に関しては水分量の管理を行う。		全利用者が1日に1以上の水分を取れるように心がける。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいをスタッフ利用者と共に行う。		感染症対策・予防に関する勉強会を定期的に行いたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒を定期的に行い、食中毒予防に努める。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りを花などで飾り、親しみやすい雰囲気をつくる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節ごとの花や植物を飾り、落ち着いた内装で居心地の良い雰囲気づくりに努める。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においても個人の個性が尊重されるようソファの配置など、居心地のよい場所の確保に努める。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室内には利用者が使い慣れた家具を配置し、居心地のよ い空間を作る。		家具が少ない入居者でも殺風景であるものにならないよう写 真・折り紙・花などで工夫する。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	定期的に換気し、適切な温度調整に努める。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	利用者の視点での安全点検や事故防止のアセスメントを行 い生活環境の改善に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	混乱が生じた利用者とは落ち着いた雰囲気の中で1対1にな れる話し合いの場を設け、傾聴により精神安定に努めてい る。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダで花を育て、中庭の散歩の支援をしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人が自分のペースでゆったり過ごせるよう、自主性を失わぬよう、職員は側面の支援を心がけています。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百合ヶ丘
(ユニット名)	ユニット2
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘3-27-2
記入者名 (管理者)	日高 聡子 (管理者垣畑啓子)
記入日	平成 19 年 8 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		新しく入社した職員の意見や感想等取り入れ必要があれば理念を見直し確かな実現につなげてほしいと考えている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		現在月1回程度の会議の回数を増やしより細かな話し合いを実現していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		グループホーム広報等を定期的に発行し具体的に紹介していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		ホームのリビングや居室前の大テーブルも地域住民の方々が気軽に利用できるように工夫したい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事に定期的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者のプライバシーや意向について配慮しつつ、地域住民の見学希望には可能な限り応じ丁寧な説明に応じている。		全職員(常勤/非常勤)に定期的な研修・自己啓発の場を提供したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	必要に応じて評価を受ける姿勢でいる。		今回が初めての評価であるが結果を謙虚に受け止め職員間で議論を行い、サービス改善に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1度の割合で会議を行い、ホームの理念や入居者の生活の日常をできるだけ詳しく地域住民に説明できるようにする。		職員や入居者家族などグループホーム関係者以外のメンバーに出席を呼びかけ開かれた会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	基本的に市町村とのかかわりは運営推進会議で行っているがそのほか不明瞭な点や指示を仰いだほうが良いと思われる事項は随時電話で相談している。		市町村とのかかわりをこれまで以上に増やし連携を本格的なものにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人手の手薄な時間帯や曜日が発生しないようにバランスの取れたシフト作りに努める。		本人や家族との面談から後見制度のニーズを捉え適宜情報提供をしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間のケアの内容や入居者の様子を報告し合い虐待が行われていないかを常に観察、確認を行う。		職員間で虐待に関する知識獲得の為の研修を行い高齢者虐待防止法等についてや万が一虐待が発見された場合の対応策を会議したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約を始め入居後の料金変更などその他の変更が生じた場合には書面にて説明し了承を得ている。</p>		<p>入居時以外の契約に関する説明を書面のみでなく対面して行えるよう便宜を図りたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>週2回程度の入居者の話の聞き取りを行い希望や不満の有無を確認している。またその内容を管理者やスタッフに伝え周知を図る。</p>		<p>スタッフに担当製を設けより密接な関係を築きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>請求書送付に合わせて利用者の1ヶ月の様子(生活/医療)を送っている。家族来訪時には随時日々様子を報告している。</p>		<p>プライバシーに配慮した写真などの報告も行いたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>必要に応じて家族との面談の場を設け希望や不満などの確認を行っている。聞き取った内容は管理者・スタッフに申し送る。</p>		<p>現在定期的な家族の面談の場はないが3ヶ月に1度程度の情報交換、サービス向上のための会議の場を持ちたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回会議を設け意見交換を行う。また会議が必要なことは随時会合を設け、連絡帳も活用している</p>		<p>現在日勤者のみの出席である会議に夜勤専門職員も出席できるよう取り計らってほしい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>人手の手薄な時間帯や曜日が発生しないようにバランスの取れたシフト作りに努める。</p>		<p>スタッフの病欠や希望休に対応できるように余裕を持ったシフト作りに努めていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>完全な担当制は敷いていないが各ユニットに最低でも1人の専任スタッフを設け入居者に継続して観察できるような工夫をしている。</p>		<p>新職員が入る場合は慣れるまで現在の職員がサポートし利用者とのかわりをサポートしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主にサービス計画作成担当者を中心に随時研修の受講を計画している。	常勤・非常勤問わずサービス向上に役立つ研修を少なくとも年1回は受講可能なシフト作成をしていきたい。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の連携や交流は今のところ実施していない。グループホーム協会に所属している。	他グループホームの運営推進会議の相互出席などを計画し、同業者同士の情報交換交流を進めていきたい。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間以外の交流を持ち、職員間の問題や課題を共有している。	職員のストレス軽減の為の取り組みを具体的に展開実施したい。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	随時職員は勤務状況を管理者に報告し相談している。	職員と管理者の面談の時間を持ち勤務状況の報告や相談を行えるようにしたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との最初の面談は入居初日がほとんどである。ホームのことをよく説明して不安解消に努める。	入居が決まった段階で本人と面談し双方の話し合いを重ね信頼関係の構築を図りたい。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の家族との面接で本人とのニーズや家族ニーズが何かを見極める為のアセスメントに努める。	現在1回ほどの入居前面談を家族の都合が許す限り回数を増やし詳細なニーズを把握したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて訪問診療や訪問マッサージなどのサービスを紹介し、連携している。		精神ケアの一環としてボランティアサービスの利用を検討し、実現につなげていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現状ではホームの入居が必ずしも納得されていない利用者の方もいらっしゃるが、なじみの職員を配置し、不安解消に努めている。		可能な範囲で体験入居を実施し入居前の不安解消に、後の円滑なサービスへつなげていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の長い利用者から教えられ、励まされる相互の関係を築いている。特に台所仕事は教えていただいている。		利用者の人生経験を生かせるような場をなるべく設けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の連絡をなるべく密に取り合い、些細な変化に関する情報を直ぐに共有できるように務めている。		本人の生活史や生活習慣に関するより詳細な情報を集め、家族と共に利用者の個別的な生活を実現させたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度利用者の情報を家族になるべく詳しく書き送り、疎遠になっている家族にも両者の心身の状況を伝えている。		誕生会などに家族を招き、ホーム入居後も家族との関わりを絶やさないう支援したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に関係継続の支援を行っていないが、訪ねてきたご友人にはスタッフが挨拶し、相互の認識を深めている。		知人・友人をホームに迎え入れるだけでなく、ホームから訪ねていける環境を築きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全スタッフが情報を共有し、観察を継続しながら、利用者同士の関係改善修復に向けての支援を行う。		スタッフがグループワークのりねんや手法を理解し、適切な支援を行えるよう研修や学習の場を設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ入居の契約を解除した利用者との関係は持っていない。		契約を解消した利用者家族についても随時相談に乗ったり適切な機関を紹介したりするなど、継続したフォローを行って行きたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に居室内での意向把握の時間をもち、希望の実現に向けて取り組む。		利用者の希望や不満を汲み取り迅速に対応できるようスタッフ間の情報伝達や組織力を強化したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記の話し合いの時間により詳細な生活暦好みの把握に努めている。		利用者だけでなく家族や知人との話し合いの場を設け利用者像を多面的に理解したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に記録を読み返し1日や1ヵ月の流れにおいての利用者の生活パターンの把握に努める。		入居時の情報のみに捉われず、ホームの人的・物的環境の中で利用者の能力を最大限に生かせるような試みを続けて行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時と要介護度の大きな変化があったときに介護計画の見直しをしている。		一人一人の個性を考慮した個別サービスのための介護計画の作成更新に努めたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の悪化、ホーム内での人間関係の悪化によりスタッフでの対処が不可能な場合は随時家族や医療機関に報告相談をしている。		画一的になりがちな介護を見直し、個別性の強いものにしていきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中での発見、気づきを重要視して日々の記録に生かしている。		より詳細な記録が記入できるようスタッフ間で記録の研修などを行いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内の支援の限界を補うためボランティアを募集している。		介護保険外のサービスやボランティアなどの資源を取り入れ、多様なサービス提供に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防点検や会議の際に出席される市職員との連携に務める。		学校や保育園の生徒・児童たちとの交流を実現させていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネより情報を集めサービス改善に努めている。		地域包括センター職員との連携を密にしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在地域包括支援センターとの具体的な協議は行っていない。		同上
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2つの医療機関より訪問診療を受け入れている。		かかりつけ医との連携を細かく強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療には管理者・ケアマネが立会い報告相談に務めている		かかりつけ医以外の地域の専門医との連携を深めていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約を結び定期的に(週1回)と随時の訪問を受けている。		訪問看護ステーションとの連携強化に努めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはかかりつけ医の診療情報書を依頼しホーム側も生活面での情報提供を行っている。		本人の状況を正しく把握してもらえるよう適切な情報提供に努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療職介護職員、家族との話し合いを重ね、終末期を尊厳をもって過ごすための方針を決定・周知している。		終末期におけるケアの方針をなるべく早いうちから話し合いによって決定し、いざというときに慌てないようにしたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療面では医師・看護師より指示やアドバイスを受け、生活面ではホーム職員と家族との間で話し合いを重ね、チームとしての支援に取り組んでいる。		他の利用者に不安や不快感を与えないようにチームとしての適切な協働に努めたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居に伴う情報提供を行っている。		利用者の退居この生活が持続性・安定性のあるものとなるよう適切な支援に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者を人生の先輩として敬い、誇りを尊重する対応に職員一同で努めている。</p>	<p>定期的な言葉遣いやマナーを改善するための研修の場を持ちたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>遠慮がちなどには個別に面接を行い、言葉に表せなかった意向を汲み取りつつ自己決定の支援を行っている。</p>	<p>利用者の真の思いを引き出させるような日頃の信頼関係の構築に努めたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>定期的な面談によって利用者の望むリズムやペースを把握するようにしている。</p>	<p>業務優先になりがちな生活支援を利用者本位のものとなるように定期的に見直しをしたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望に添い美容院の付き添いや訪問利用の受け入れを実施している。</p>	<p>現在家族付き添い以外は近隣の美容院利用に限られているが、ボランティアを活用し利用する店の範囲を広げたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な限りのお手伝いをお願いし、準備後片付け共に職員と利用者が協働する。</p>	<p>趣味の一環として料理教室やお菓子教室を行って行きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒や煙草を好む人に関しては安全・健康を考慮した上で楽しみを支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄のリズムを把握し、トイレで普通に排泄が出来るよう声かけ誘導に努める。		より細かな個別の排泄状況を把握し、適切なるケアに努めたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者全員が気持ちのいい入浴が出来るよう、個別ケアに努める。		職員の配置や役割分担を工夫し、利用者が好きな時間に入れるようにしたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定期的な面談や医師の問診を通じ睡眠状態の把握に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活が単調で刺激に乏しいものにならない様に外出や趣味活動の支援を継続している。		ボランティアの人的資源を取り入れ、外出や趣味活動の範囲を徐々に広げて行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と金銭所持のトラブルの内容に話し合い、可能な限り自分で支払えるような機会を確保している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	無理強いを控えながらも、自然と利用者が戸外に行ける様に支援している。		個人個人の希望に添った外出の実現、取り組みをしていきたいと考えている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	散歩や買い物以外にどこか出かけたいかどのようにしてその希望を実現できるか、話し合いを重ねている。		家族・ボランティア・公共機関を利用して旅行やハイキングなどをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を通じて利用者の社会関係を継続される支援に努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの人の訪問を受け入れ、ゆったりしてもらえる雰囲気を作るように努めている。		遠方に在住している家族には別室宿泊できるように支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保以外に不要な拘束はしないよう努めている。		研修を通じ拘束を学びたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在ユニット と玄関の門には施錠をしている。		安全を確保し、鍵をかけない戸の実践していきたい。そのためには地域住民の協力をしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日夜を通じ見守りを継続している。		死角を作らぬよう、安全策を講じて行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁の置き位置、ガスの点検等職員間で注意し、安全管理を行う。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	店頭の危険性を絶えず認識し職員間で注意の喚起を図る。		事故に関しての職員の研修を持ち、自己防止対策の知識・技術を身につけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要な応急手当について訪問看護の看護師や、医師の指示を受けている。		全職員が緊急対応が適切に出来るように医療職を招いての研修を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	具体的な災害対策は実施していない。		定期的に市消防局の協力を得て避難訓練を実施したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	外出先の支援などホーム側で出来ることと出来ないことを家族に説明し話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックの他、表情や体調の変化に注意し、利用機関に連絡を仰ぐなど迅速な対応に努める。		職員全員が利用者の持病やアレルギーなどを把握できるように情報共有に努めたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報に対応しつつすべての職員が利用者の服薬に把握できるようファイル作成し、変更に応じ随時更新している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防・解消のための生活リズムや水分量運動量の見直しを行う。		下剤服用に頼らない便秘解消に努めたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援が必要な利用者に関しては適時食後の口腔ケアを行う また定期的に歯科訪問も受け入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に利用者に面談し、嗜好・体調の聞き取りを行っている。脱水が疑われる入居者に関しては水分量の管理を行う。		全利用者が1日に1 以上の水分を取れるように心がけたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいをスタッフ利用者と共に行う。		感染症対策・予防に関する勉強会を定期的に行いたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒を定期的に行い、食中毒予防に努める。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りを花などで飾り、親しみやすい雰囲気をつくる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節ごとの花や植物を飾り、落ち着いた内装で居心地の良い雰囲気づくりに努める。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においても個人の個性が尊重されるようソファの配置など、居心地のよい場所の確保に努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室内には利用者が使い慣れた家具を配置し、居心地のよ い空間を作る。		家具が少ない入居者でも殺風景であるものにならないよう写 真・折り紙・花などで工夫する。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	定期的に換気し、適切な温度調整に努める。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	利用者の視点での安全点検や事故防止のアセスメントを行 い生活環境の改善に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	混乱が生じた利用者とは落ち着いた雰囲気の中で1対1にな れる話し合いの場を設け、傾聴により精神安定に努めてい る。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダで花を育て、中庭の散歩の支援をしている。		



サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人が自分のペースでゆったり過ごせるよう、自主性を失わぬよう、職員は側面の支援を心がけています。